

# 医療監修者の仕事を通して感じること

日本薬学生連盟

## 笠原 英城さん(日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部長)に聞く

約2年前に放送されたテレビドラマ「アンサング・シンデレラ」。毎週視聴していた薬学生もたくさんいたのではないのでしょうか。今回は、このドラマの医療監修をされた笠原英城さん(日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部長)に「医療監修者の仕事を通して感じること」をテーマにお話を伺いました。ドラマ制作当時の想いや裏話から、薬剤師の先輩としての意見まで様々な話を掲載しているので、ドラマを観た方はもちろん、薬学生全員必見の記事となっています。記事は日本薬学生連盟広報部の金久絵理奈(東京薬科大学4年生)がまとめました。

### 「薬剤師のドラマを」まさか自分が 放送日は地獄、でも達成感

—医療監修では大変なことがたくさんあると思いますが、やって良かったと思うことはありますか？

全てが良い経験でした。僕が、重篤副作用マニュアルの作成の仕事をして30代から40代の頃に、「死ぬまでに薬剤師のドラマができると良いね。そうしたら色々な脚本を考えてみたいね」と言っていたんです。当時は、まさか自分が関わることになるなんて夢にも思っていなかったです。

この仕事は、辛かったけど楽しかったです。一緒に監修をしていた日本医科大学千葉北総病院薬剤部長(当時副

薬剤部長)の實川東洋先生とドラマを見ながら、たくさん連絡を取り合いました。ドラマ放送日の毎週木曜日の夜は地獄でした。でも逆に、最終回が終わった時に、實川先生と電話して泣きそうになりました。もうこれでこの時間がなくなっちゃうんだなと思うと、寂しかったです。大変さもありましたが達成感が大きかったです。

薬剤師は日々の仕事に忙殺されて、なかなかひとつのものをやるのがないんです。日々一生懸命やっていますが、形に残るものではないので、今回は非常にいい経験をさせてもらえたなと思いました。

のコミックから作られていました。ドラマ制作チームで色々検討して、でき上がってきた文章をわれわれが監修します。しかし、最終回だけは真っ白なところからわれわれが提案したんです。

最終回では、主人公の葵みどりが産婦人科専門の病院へ行ったという設定でした。妊婦・授乳婦への薬物投与は僕の得意分野だったのでテンションが上がりました。気合と期待を込めて考えましたが、結局採用されませんでした。プロデューサーの価値観とは違ったのでしょう。

われわれが考えた幻の最終回は、乳児をかかえるてんかん患者が、母乳をあげたら自分の抗てんかん薬が乳児に悪影響を及ぼすのではないかと心配するストーリーです。

患者は、薬を服用しなければいけない中、授乳したいけど薬の影響が不安で授乳をやめ、泣く泣く粉ミルクを選択するんです。葵みどりが薬袋を持って患者のそばを通った時に、そんな患者の後ろ姿が目に入って違和感に気が付くという動作まで考えていました。葵みどりは外来の待合室まで見ているんだぞという気持ちを込めました。

それでも全く採用されませんでしたから、非常に残念でした。しかし、やっぱりプロデューサーというのは大したもの、色々俯瞰して上の方から見渡して考えていると思います。良い経験をさせていただきました。

—監修ではなく、笠原さんがドラ



マを作るならどんなドラマを作りたいですか。

プレアボイドを取り上げたいです。プレアボイドとは、薬剤師が薬物療法に直接関与し、薬学的ケアを実践して副作用や相互作用、治療効果不十分など患者の不利益を回避あるいは軽減した事例のことです。

例えば、検査値からロキソニンの急性腎機能障害を見つけたとか、タケプロンを飲んで大腸炎になった初期症状を見逃さなかったとか、色々な初期症状を薬剤師が見つけて救うことができた事例が報告されています。

また、眠れないと訴える患者さんに対して薬を増やすのではなく、少し違う系統のものを提案し、患者さんがぐっすり眠れるようになったというプレアボイドもあります。そういった薬剤師が薬本来のことを提案したことをドラマにして、薬剤師さんかっこいいと思ってもらえるようなドラマを作りたい

➤

### 最終回ストーリー提案も幻に プレアボイドを取り上げたい

—ドラマ監修中、不採用となった笠原さんの案のうち、どうしても入れたかったものはありますか。

最終回の内容です。ドラマの基本的な骨格は、ドラマ「グランメゾン東京」を手がけた脚本家による台本と、原作

## “患者”と“医療者”による本当のチーム医療とは!?



# 患者参加型医療

本当のパートナーシップの実現を目指して

医療のこれからのあるべき姿である「患者参加型医療」。その考え方を広め、実現するために、患者と医療者双方の立場から“わかりやすさ”をコンセプトに概念や課題などを詳述した一冊。

【編著者】岩堀 禎廣

【著者】鈴木 信行  
有田 悦子

【目次】

- 第1章 患者参加型医療とは？
- 第2章 なぜ、患者は薬を飲まないのか？
- 第3章 患者視点のない医療者は生き延びれない
- 第4章 患者の想いを共有するために～薬剤師と患者のコミュニケーション～
- 第5章 最初の一步は薬剤師から！

A5判/104頁/定価1,800円+税

薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ(<https://yakuji-shop.jp/>)または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。